

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和元年度取組結果】

団体名	皿倉登山鉄道株式会社
-----	------------

所管課	産業経済局 観光課
-----	-----------

団体に対するミッション
本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の誘致など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

行財政改革大綱における見直し内容
今後も、平成22年度に策定した「経営改善計画」に基づき、健全経営の維持に努める。

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	着実な経営改善に取り組む。
-------------	---------------

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H27	H28	H29	H30	R1		R2	R3
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
当期純利益	14,449千円	20,146千円	21,537千円	24,719千円	当期純利益の確保	2,849千円	当期純利益の確保	当期純利益の確保
純資産	21,161千円 (累積損失解消)	41,308千円	62,846千円	87,565千円	黒字	90,413千円	黒字	黒字
長期借入金	66,500千円	61,400千円	61,400千円	56,300千円	市借入金の確実な返済	46,100千円	市借入金の確実な返済	市借入金の確実な返済

ミッションの遂行状況の評価（令和元年度）

団体における評価	H13年に購入したケーブルカーの大規模オーバーホールを2.17~3.31まで行い、その間は運休とし約1.5月分の運賃収入がなかったこと、及び、夜間運行日の増大、運行技術の伝承等のための採用増などに伴う人件費の増大にもかかわらず、黒字化ができた。	市の評価	令和元年度も、韓国からの利用者の減少やケーブルカーの大規模オーバーホールによる運休という状況にありながら、「当期純利益の確保」、「純資産の増」、「長期借入金の減」という3つの成果指標を達成できている。これは、夜間運行の拡大やイベントの実施等によるもので、当該団体による積極的な取り組みの結果として、大いに評価できるものとする。
今後の課題及び見直し内容（案）	経営改善のために行った人件費削減策のため、現在人材不足によりケーブルカーのメンテナンス技術の伝承等ができていない状況であり、技術の確実な伝承のための人材確保、組織作りが急務である。また現在のコロナ禍の中で感染防止、安全運行に務めてはいるが、激減した運賃収入の回復をどう図るか見えない状況である。今後も、市と一体となって、集客促進策やイベントの実施に取り組んでいく。	団体への改善指導内容（案）	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る経費等が発生するが、団体と一体になって、引き続き最大限の感染防止対策に努める。 コロナ禍による利用者減は懸念されるが、北九州市内及び近隣を対象とした集客促進策や夜景イベントの実施などにより、利用者・収入確保に努める。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
集客対策として、夜間運行の拡大や皿倉山の特性や優位性を活かしたイベントの実施、旅行会社・マスコミ・情報誌へのPR活動を行った。また、ケーブルカーの大規模オーバーホールによる運休に合わせて、山麓駅の屋根の全面補修やトイレの洋式化など、顧客サービス向上のための設備投資も行った。このような取り組みを行ったうえで、当期の純利益として284万円を計上し、黒字を確保できていることは評価できる。	